「オーロラブブラック」の生育促進技術

「オーロラブブラック」は、大粒、種なし、高糖度で食べやすく、岡山県のオリジナル品種として期待されています。

慣行より早く成熟させ、需要の多い時期に出荷できるように、発芽促進処理、植物成長調整剤の満開期１回処理、着果管理の３つの技術を組み合わせた生育促進技術を開発しました。

写真１　８月上旬の果実の比較
（上段：生育促進区、下段：慣行区）

特徴

（１）発芽促進処理（発芽促進剤、トンネル被覆の早期化）を行うと、慣行栽培に比べて発芽期、開花期、果粒軟化期が４～５日程度早まります。（表１）

（２）発芽促進処理した樹に、植物成長調整剤（ジベレリンとフルメット）の満開期１回処理と着果管理（着果制限、小房化）を行うことで、成熟期は９日程度早まります。（表１、図５）

（３）県南部の簡易被覆栽培では、需要が多く販売に有利な時期に収穫することができます。

（４）生育促進技術を取り入れることで、出荷期間が延長できます。

生育促進技術

（１）発芽促進処理

①シアナミド処理

時期：12月中下旬

方法：シアナミド（１％液）に展着剤を加用し、せん定前の結果母枝（１芽～２芽）付近に塗布または散布します。

②液肥処理

時期：１月下旬

方法：窒素成分３～４％に希釈した液肥を、芽に塗布または散布します。

③トンネル被覆の早期化

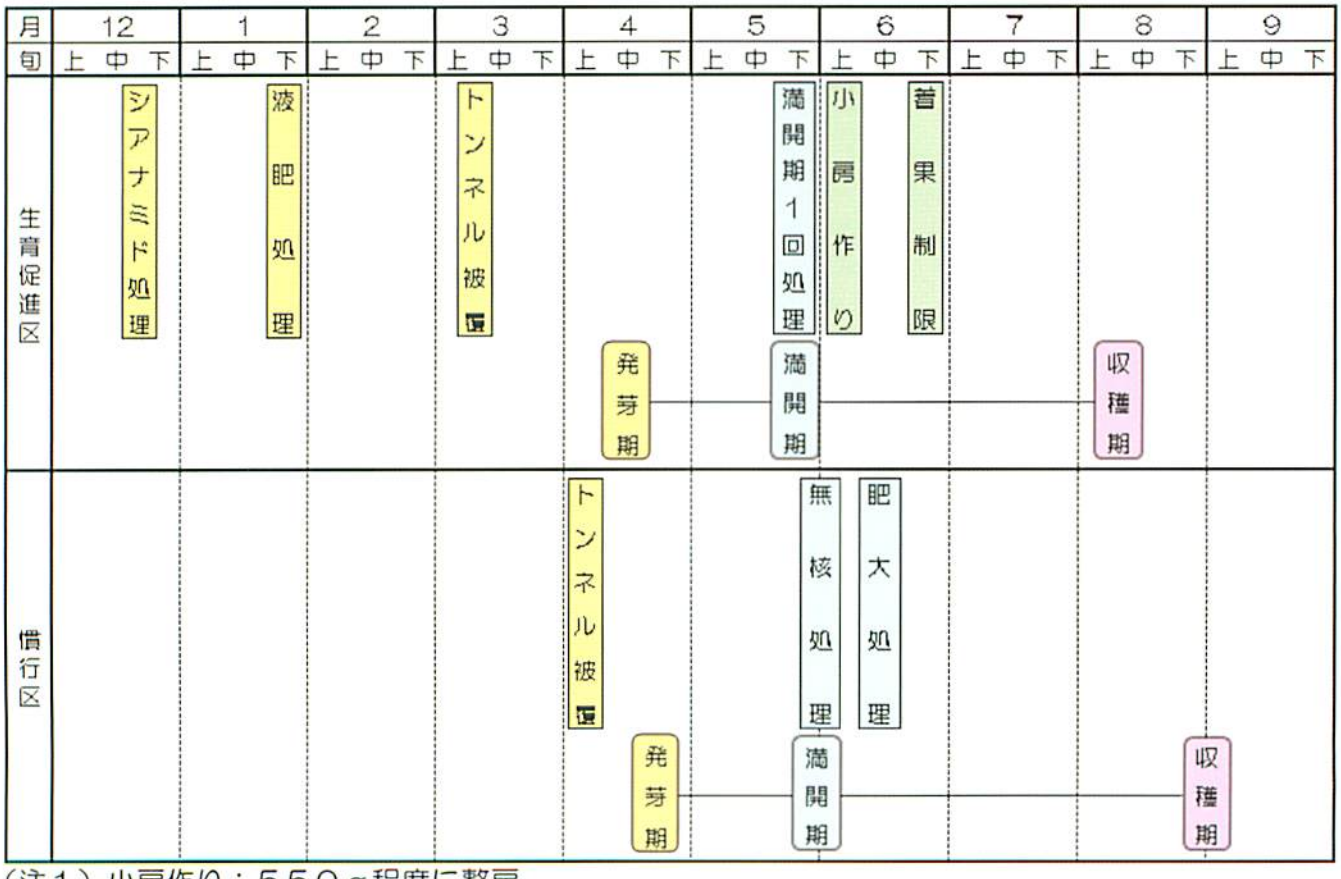
慣行（３月下旬～４月中旬）より早く、３月上～中旬にトンネル被覆を行います。

（２）ジベレリンおよびフルメット処理（満開期１回処理）

満開～満開４日後にジベレリン25ppmとフルメット10ppmの混用液に花穂を浸漬します。（技術情報㉓、㉟参照）

（３）着果管理

着果量を1,600kg／10ａ程度以下にすることで成熟が早くなり、果房重を550ｇ程度の小房にすることで秀品率も高くなります。（図２、３、４）



（注１）小房作り：５５０ｇ程度に整房

（注２）着果制限：１，６００ｋｇ程度以下に着制限果

図１　オーロラブラックの生育促進技術による栽培体系

留意点

（1）「オーロラブラック」に生育促進技術を活用すると、「ピオーネ」に比べて10～14日早く成熟することから、「ピオーネ」が８月中旬頃に成熟する地域では需要期に出荷できます。
（2）発芽開始が通常より10日程度早まるため、晩霜に注意が必要です。
（3）糖度の上昇や酸の低下に比べて着色が早く進むため、食味を十分に確認して収穫・出荷を行います。（図５）
（4）シアナミドや液肥は製品によって希釈倍率が異なるので、取扱説明書をよく読んで使用してください。
（5）シアナミド処理時には、防護具の着用や飲酒の厳禁等、使用上の注意事項を厳守してください。

参考資料

表１　オーロラブラックの生育促進処理が生育時期に及ぼす影響（平成17年）

品　種	発芽期	満開期	果粒軟化期	成熟期
生育促進区	４月18日	５月27日	７月２日	８月12日
慣　行　区	４月23日	５月31日	７月６日	８月21日
促進日数	５	４	４	９

（注１）成熟期は糖酸比40に達した時期
（注２）糖酸比：糖度(Brix)／酸含量(g/100ml)

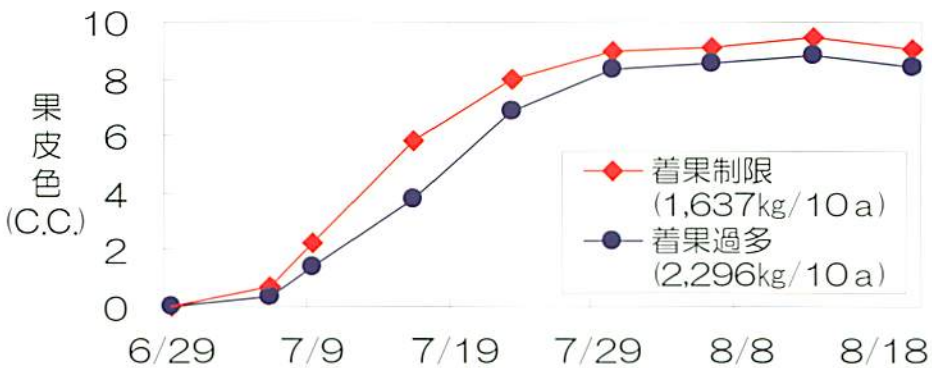


図2　着果量の違いが果皮色の推移に及ぼす影響（平成16年）

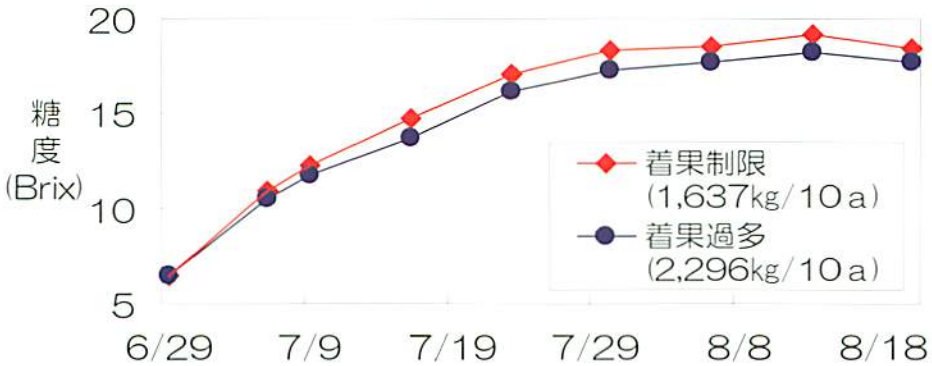


図３　着果量の違いが糖度の推移に及ぼす影響（平成16年）

図4　オーロラブラックの着果量、果房重の違いが盆前(8/12)の果実品質に及ぼす影響（平成16年）

（注）出荷等級は全農岡山県本部出荷規格に準ずる

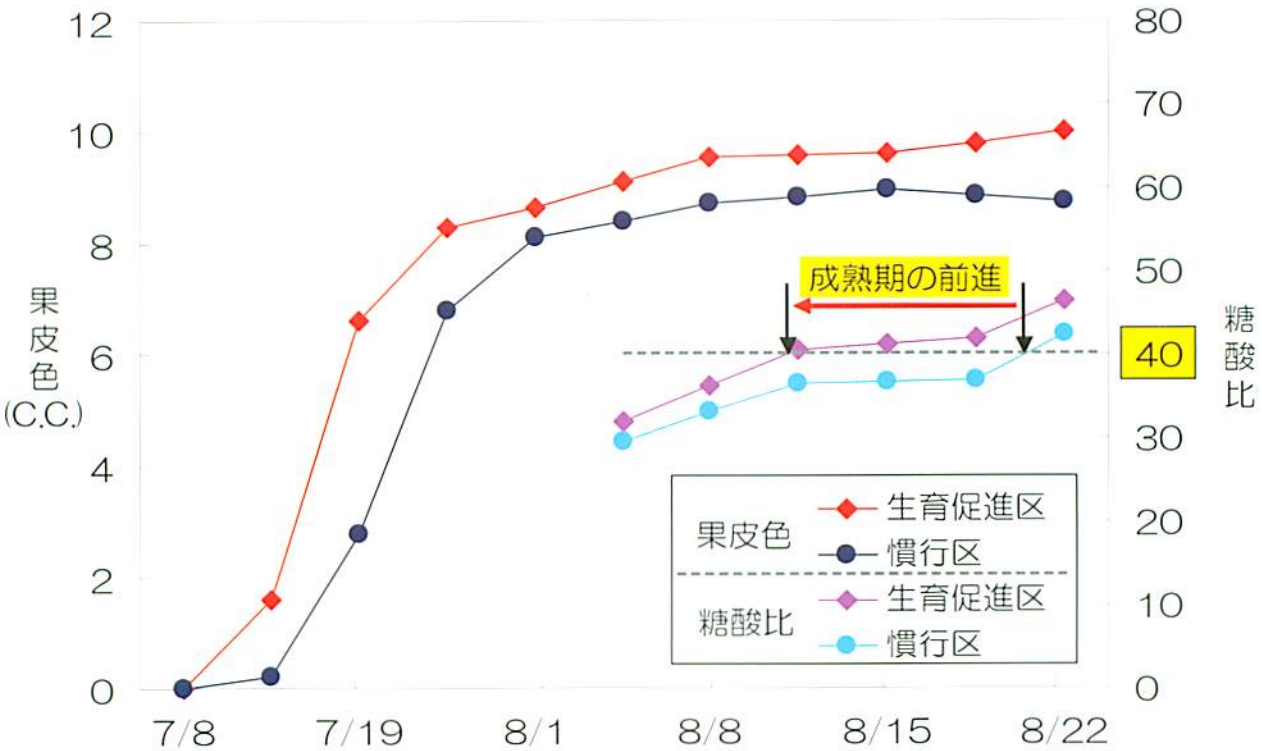


図5　オーロラブラックの生育促進処理による果皮色と糖酸比の推移（平成17年）

（注）成熟期は糖酸比40に達した時期

この資料に関するお問い合せ先

お近くの農業普及指導センター
又は
農業総合センター総合調整部普及指導課　☎086-955-0274
農業総合センター農業試験場果樹研究室　☎086-955-0276

再生紙を使用しています